平成21年11月5日　第4号　　発行　四日市市自治会連合会

四自連だより

安心・安全で明るく住みよいまちづくり

四日市市自治会連合会
会長　高野　健

平成21年度、四日市市自治会連合会会長に就任いたしました日永地区の高野　健でございます。

平素は、自治会活動に種々ご尽力いただいておりますこと、心からお礼を申し上げます。

さて、世の中少子高齢化や世界的な経済不況など社会経済の目まぐるしい変化、また、核家族化等の生活様式の変化に伴い多くの課題が生まれ、市民ニーズも多様化しております。

自治会においても多くの問題が発生しており、中でも自治会加入率の低下は著しく、本市においては、2008年84．7%から2009年83．14%に減少してきております。都市化の象徴であるマンション等の集合住宅が多く建設され、世帯数が増加したにもかかわらず自治会への加入率が非常に低いことであります。

自治会への関心の薄さ、あるいは地域との繋がりを嫌う人々が増えつつあるなかで**「安心・安全で明るく住みよいまちづくり」**のため、そこに住む人々の交流と心のふれ合いをいかに強めていくかという「コミュニティ作り」が必要であると考えております。

いずれに致しましても、行先不透明なこの時代、当市における地域社会の課題を解決していくためには、我々自治会等各種団体と行政が対等な立場で話合い、支援・協力が必要であろうと思います。

最後になりましたが、今後自治会等の果たす役割は大きなものがあろうと思われます。これからも都市化の波に飲まれることなく、住民の皆さんの協力のもと「よりよいまちづくり」のため四日市市自治会連合会として更なる努力をしてまいりますことを申し上げ、私のあいさつといたします。

四自連 活動の足跡

市内視察研修

9月16日（水）四自連では、臨海部の施設を中心に市内の視察研修として、4ヵ所をまわりました。

川越町にある**電力館テラ46**では、敷地内をバスで周りＬＮＧを燃料とした世界最大級の火力発電所の概要についてガイドによる説明を受けました。

その後、**四日市港ポートビル**では、コンテナを利用した輸出入の仕組みや、かって食料品、綿花、羊毛が主であった取り扱い品目も、輸入においては原油、ＬＮＧ、ＬＰＧ、輸出においては自動車、化学薬品、石油製品が上位をしめ、時代とともに変化している経緯を伺いました。

午後からは、四日市を代表する企業のひとつである**味の素**の工場見学をしました。敷地内に広大な野鳥保護エリアがつくられており、社員の環境への意識向上と、地域への配慮を知りました。工場見学は無料で、予約をすれば誰でも受け入れてもらえ、地域の各種団体や、各自治会で視察研修に利用してもおもしろいと思います。

塩浜にある**高度イノベーションセンター**の見学では、日本の最先端技術の更なる研究をし、企業間の垣根を超え、知恵を出し合い新しい素材を作っていると知り、「今後、新しい発見を四日市から発信できる」という夢のある取り組みをしていることがわかりました。

最後に、楠地区の**宮崎本店**に行き、作業行程の説明を受けました。趣のある建物が今も大切に保存され、現在使われている事務所は、有形文化財の指定を受けているそうです。

１日でまわるには、ハードな行程でしたが、四日市を再発見することのできた有意義な視察でした。

平成21年度四日市市自治会長大会

1．日　　時　平成21年11月26日（木）
　　午後1時30分から午後4時30分まで
2．会　　場　四日市市文化会館　第2ホール
3．大会次第　第一部　永年勤続自治会長表彰　午後１時30分～
　　第二部　講演会　午後2時30分～
《講演会》　演題　「あなたの町、再発見　～珍・日本紀行～」
　　講師　歴史散歩家　青空（あおぞら）　遊歩（ゆうほ）氏

《講師プロフィール》
1958年２月生まれ、横浜出身。青空うれし師に師事歌謡ショーの司会を中心に活動。渚ゆう子さん、形大作さん、島倉千代子さん、天童よしみさんたの専属をつとめる。日刊ゲンダイで「青空遊歩の珍日本紀行」を2007年まで連載。日本全国を駆けり、訪れた各地の魅力を、「ご当地再発見！」と題し地域活性のヒントとなる講演を展開している。

ご興味のあるかたは、お気軽にご参加ください。
【問い合わせ】四日市市自治会連合会事務局
　　担当　大滝まで　059-354-8287

三重県自治会連合会　総会

7月15日（水）に三重県自治会連合会総会が津市で行なわれました。

三重県自治会連合会に加入している市は、市町併せて14支部あり、総会の席で永年勤続の表彰を行いました。

【本年度の表彰者】

知事表彰・塩浜地区　伊藤　力
知事表彰・橋北地区　花村　誠
社協表彰・海蔵地区　水谷　重信
会長特別表彰・中央地区　三栗谷　祐三
会長感謝状・大矢知地区　伊藤　峯夫

（敬称略）

中部自治会連絡協議会　総会

10月9日（金）中部自治会連絡協議会総会が富山県富山市で開催されました。

総会のあと、富山市長　森　雅志氏による“地球環境問題について”の講演会がありました。富山市は平成20年7月に国から環境モデル都市の認定をうけて、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりに取り組んでいて、本市も参考になる内容でした。

市長の政策懇談会

7月13日（月）富田地区を皮切りに、“市長の政策懇談会”を実施しております。

この事業は、四日市市自治会連合会と市による共催で行なわれており、市民、各種団体などの地域の事情を、直接市長と意見交換できる良い機会であり、平成23年に新たに策定される新総合計画にも、繁栄されていくものです。

【今まで行なった地区】

7月	13日(月) **富田地区**	①市長の方針について ②近鉄富田駅の総合対策～駐輪場問題を含む～ ③十四川下流のヘドロ～悪臭問題について～ ④学童保育所について ⑤老人対策について ⑥地区市民センターの移転について
	21日(火) **日永地区**	①日永地区における交通渋滞緩和策と生活に密着した道路整備の促進について ②児童虐待について ③高齢者収容の施設不足について ④日永地区の青少年の現状・居場所について

7月 24日(金) **塩浜地区**
①防災対策・住環境の整備について
②地域の福祉力向上によるまちづくりについて
③少子化と教育行政について
④事業所税の導入と地域政策について

29日(水) **神前地区**
①神前地区におけるまちづくりについて
②自然を生かしたまちづくり
③神前のまちづくり
（道路行政・定住対策・スポーツ施設の整備
駅周辺の整備・地区市民センターの位置付け
行政区と学校区の違い・四日市鈴鹿環状線）

8月 6日(木) **小山田地区**
①少子化に伴う学校教育について
②小山田地区の都市計画を考える

10日(月) **羽津地区**
①まちづくりに関する課題について
②高齢者が安心して暮せる地域社会をめざして
③教育・子育て・子ども医療について

20日(木) **三重地区**
①健やかな心身を育むまちづくり
②三重西総合福祉施設の設置について
③地域とともに進める安全・安心のまちづくり
④若い世代が地元に住める環境づくり
⑤北勢バイパスに関連する地元整備
⑥高齢化団地での高齢者交流拠点の整備

24日(月) **桜地区**
①地域福祉の現状
②ふれあいいきいきサロンの活動及び敬老事業の補助金について
③介護養護施設等への入所困難について
④福祉送迎・ボランティアの高齢化と後継者難・ボランティア活動拠点について
⑤たのし会の活性化について

10月 27日(火) **海蔵地区**
①地域でできる安心して過ごせる子どもたちの居場所づくり
②防犯意識の高いまちをめざして
③災害に強いまちづくり
④海蔵川のさくら堤を地区の財産として守り育て年間を通してのまちづくり活動

30日(金) **常磐地区**
・地域活動と市民センターの役割
①常磐地区の現状
②連合自治会の現状
③マニュフェストについて
④マニュフェストへの提言
⑤外部から見た市民センターの現状

【今後の予定】

平成21年11月	4日(水)	八郷地区	平成22年1月	8日(金)	富洲原地区	2月	4日(木)	四郷地区
	6日(金)	保々地区		14日(木)	内部地区		10日(水)	下野地区
	9日(月)	楠地区		22日(金)	水沢地区	4月	16日(金)	河原田地区
	24日(火)	橋北地区		28日(木)	中部地区	5月	18日(火)	県地区
	25日(水)	川島地区					18日(火)	大矢知地区

各自治会の特色ある活動

中部【同和地区】

同和地区連合自治会
会長 松本光文

古い町を住みよい町に

同和地区は古い町で、地区の発展は徳川時代東海道が整備され北町の辻より東へ四日市一の繁華街が形成され、商家商工業への勤め人、農家などが有り、人情味豊かな町として発展してきました。

銀行、警察署、商工会議所、郵便局等も近くにあり、大変住みよい町でした。

戦後は、住宅地として昔からの人が多く人情味豊かな町となりましたが、三滝通り等道路が大きくなり（都市計画による）便利になりましたが、住宅が減り住人が少なくなり、市内最少の地区となりました。高齢の方が多く地区として高齢者をサポートするよう取り組んでいます。

防災訓練では、災害時要援護者台帳を活用し、安否確認に伺う三軒両隣りへの声かけ等近所の連絡に重点をおき、婦人部はアルファ米による現地給食等、社会福祉協議会の会員と協同で行い、大変良い経験が出来たと思います。

今後も町内向こう三軒仲良く高齢者に住みよいまちづくりになる様、地区を上げて取り組んでまいりたいと思っております。

防災訓練の様子

婦人部によるアルファ米現地給食

各自治会の特色ある活動

北部【下野地区】

下野地区連合自治会
会長 藤谷克彦

豊かな自然環境をいかして下野の将来を展望する

わが地区「下野」には、西暦600年代の初めに、南北の丘陵地を中心に札場新田、山城、中里、北山、西大鐘、東大鐘の六つの村落ができておりました。地区の中央には朝明川が西から東に流れており、農業を中心として発展してきました。昭和40年代の初め、二つの団地（あさけが丘団地、八千代台団地）が造成され、人口も急増、それに伴って昭和54年には朝明中学から分離して新しく西朝明中学校が開校しました。そのため教育施設の整備は図られましたが、年々増加する高齢者への対応は、近年、福祉施設が整備がされているものの若干遅れている感があるのは否めません。現在、地区の面積は7.57km^2、人口は約8､300名程であり、市内24地区では中ぐらいに位置しております。

さてわが「下野」の財産は地区を取り巻く豊かな自然です。この環境を最大限に生かし、既存の歴史的財産を有効に活用した次のようなまちづくり策を提案したいと思います。

一つ目は、緑と水資源の有効活用です。つまり、近年の電気、ガス等の普及によって、ほとんどその存在のありがたさが忘れられつつある山林（里山）や、小川の活用です。団地に近接する里山を整備し、川原を清掃することにより、地域住民が世代を超えて、憩い集える場として開放できたら、とても豊かなふれあいの時間と場が生まれると思います。

二つ目は、歴史的財産の有効活用です。地区内には、平成3年度に調査した38か所の遺跡、史跡があり、文化遺産として今日まで、多くの方々に知られるところとなっております。これらの文化遺産及び歴史的資料を保存、見学できるような施設の開設は、自らその歴史の中に身を置いて生きてきた年配の人たちには、感慨新たにさせ、これからこの地で生きていく若い人たちには、ふるさとへの愛着と誇りをもたせるのではないかと思います。

三つ目は、既存農地の有効利用です。農業従事者の高齢化により、下野地区も遊休農地や耕作放棄地の増加が著しくなっております。あちこちに散在して管理しにくい農地を大区画農地に改良することにより、省力化と効率的経営が可能なようにすれば、今後の展望も開けてゆくのではないかと思います。

里山整備箇所の現況

里山整備の構想図

各自治会の特色ある活動

北部【保々地区】

保々地区連合自治会
会長 市川善為

豊かな自然、歴史を感じる人がふれあうふるさと保々

保々地区は、四日市市の西北端に位置し、北はいなべ市と東員町に、西南は菰野町に接しています。この地区は、縄文時代から生活が営まれていたことが確認されており、弥生、古墳時代に、西村、市場村、中野村、小牧村の4か村の集落が生まれたとされています。地区内には、丸岡遺跡や城跡など歴史にかかわる遺跡が多く、また、北勢中央公園周辺の川をはじめ地区内の川には、ホタルが乱舞するなど自然の豊かなところです。

朝明川が縦断する当地区は長らく農耕を中心に栄えてきましたが、昭和56年ころからの地域開発（高見台団地、保々工業団地、まきの木台団地）により、周辺には、内陸型の工業団地が点在し、これらの工場に勤務する人たちの世帯も多くなってきました。周辺地区や他の市町からの転入も増えてきた昨今、地域間の交流がひとつの課題となってきています。面積は、10.86km^{2}であり、約7400人が生活しています。

16ある自治会は、この保々の特性である、自然、歴史、ふるさとを大事にすることをモットーに活動しています。各地区自治会長は、ほぼすべての住民活動団体に関わり、住民のリーダーとしてさまざまな形で活動しているところです。

次に地域団体活動例の主なものを紹介します。

ひとつは、保々の豊かな自然を守る活動として「保々の自然に親しむ会」による里山保全活動や、「保々ホタルの会」によるホタル保護、観察活動、また地域有志による農業体験学習などを開催し、地区外からも多くの方の参加を得ております。

市内小学生芋ほり体験

二つ目は、みんなが生きがいを実感できる事業として、文化祭、運動会、敬老会など住民相互の交流会や人権啓発活動を開催し、人とのつながり、ふれあいを大事にする活動に積極的に取り組んでいます。

三つ目は、安心安全のまちづくりをめざし自主防災協議会による地域住民自らが助け合い、必ず来る大災害時に備えた防災訓練などを実施しております。

このように「自然」と人の「心」を大切にする活動を自治会の中心にして各団体が次の世代に残すまちづくりを進めていきます。

彦左川のホタルの飛翔

各自治会の特色ある活動

西部【神前地区】

神前地区連合自治会
会長 内田 幸輝

住みよい・住みたい 人権のまち かんざき

神前地区は四日市市のほぼ中央部に位置する、豊かな自然に恵まれた田園地帯です。近年は国道477号バイパスの開通に伴い中消防署中央分署ができ、地域住民の防災意識も高まってきています。

当地区では、同和教育推進協議会主催の地区別懇談会を自治会が中心になり行っています。毎年、7～8月に自治会を始めとする各団体から選出された啓発委員が4回の研修を受け、それぞれの会場（町）でリーダーとして『差別をなくし、誰もが安心して住めるまちづくり』を目指して懇談を進めます。過去には、「余計なことは言わずに懇談会が穏やかに終わればいい。」という考えも少なくありませんでしたが、今では各町で参加者を増やす工夫をしたり、取り組みの目標を明確にすることで活発な話し合いが行われています。

社会福祉面では、ふれあいいきいきサロンを福祉協力員が中心となり『○○町ふれあい広場』と名付けて自治会別に運営・開催しています。活動回数は月に5回以上の町もあれば年1回の町もあり、内容もグランドゴルフ・体操・おしゃべりなど、どなたでも参加しやすいように考えられています。開催日には民生委員も参加して、まちぐるみで楽しい時間を過ごしています。

また、防災訓練も自治会単位で行っています。この方法ですとそれぞれの地区事情に合わせた訓練が可能となり、自治会内の住民の結びつきが深まり、いざという時には力を発揮するものと期待しています。

これからも、地区社協・地区同推協を始めとする各種団体との連携を更に深め、『住みよい・住みたい　人権のまち　かんざき』を目指した活動を進めていきます。

地区懇談会（神前地区同和教育推進協議会）の様子

自治会別防災訓練の様子

各自治会の特色ある活動

南部【河原田地区】

河原田地区連合自治会
会長 宮田　勉

みんなで助け合うまちづくりを

我が河原田地区は、東に楠町と塩浜地区。北は日永地区、西に内部地区、南は鈴鹿市に囲まれた5km^{2}強の地域に存在しており、内部川を中心にして北側に大治田、川尻町南側に内堀、貝塚、南、北河原田町の6町から成り、人口も5千人弱で本市の28地区の中で下位に属する小さい地区であります。

昭和29年に四日市市に合併し、昭和30年代前半までは平地は水田、丘陵地はみかん畑という純農村地域でしたが、本市に石油化学企業が進出し、新しい産業形態としてコンビナートが形成され、当地区にも関連工場の建設が進み水田は工業用地へと変わりました。

以後、年を経るにつれて住民の生活様式も農村型から都市型へと変化し、意識も地域に根ざした農業から就業先の会社の方へと移行し地域との連携が薄れてきました。

しかし、昭和49年7月の集中豪雨で内部川の堤防が決壊し4町が大きな被害を受けた時、住民の連帯意識が目覚め道路等を覆っていた膨大な量の漂流物を、被害にあわなかった住民の手でわずか半日で除去し、災害後の復旧を早めることができました。

昨今、世界的な課題となっている温暖化現象の影響か風水害の多発、また地震も頻発しております。当地区は、住民が安心して暮せるよう「住民が相互に助け合う（共助）まちづくり」を目指しております。

そのために、住民が相互にふれ合い協力する場づくりを、地区社協を始め諸団体が協力しあって様々なイベントを実施しております。

この中心となって汗を流しているのは壮年世代の男女で誠に力強い限りです。

大は小をかねるといわれますが、「小の利点」をいかした活動を進めていきたいと考えております。

三世代交流餅つき大会

避難所運営についてのワークショップ

地区市民センターの改革について

――― 中間経過報告 ―――

平成21年度地区市民センター改革推進協議会は、2年目を迎え、昨年度に引き続き地域団体、各種団体、ＮＰＯ法人、子育て世代、身体障害者団体、公募等の委員12名で、昨年の協議会でまとめた**今後の市の取り組み**についてのさらなる具体化に向けた協議を行なっています。

今年度は、ハード面だけでなく、ソフト面について、館長、副館長等の人事面で中堅職員の登用により、積極的に地区住民に関わっていけるような職員配置を働きかけていくことや、館長、副館長、地域マネージャーの役割をより明確にしていくべきとの意見がありました。

窓口業務については、住民票や戸籍謄本等の交付だけではなく、今後、高齢者の人口が増加していくうえで、**“歩いていける身近な場所”**での福祉サービスの申請等の相談業務の重要性を再認識しました。

そして、四日市市内23か所のセンターは、四日市市の貴重な財産であるという意見が多くでました。

民間のサービスとは異なった行政サービスは、市民に平等にサービスを提供することが大切です。しかし、財政面を考えたときに、今後センターの窓口業務を民間に委託した場合でも、相談業務は、各地区市民センターに残してもらいたい。そして、センターの窓口業務と併せ、ショッピングセンター等でも、窓口業務を開設できれば住民にとって、さらに利便性が高まるという意見も出されました。

また、センターの貸館のあり方について、地域の特性をふまえ地域の団体に貸館業務を任せるなどの見直しを検討していくことになりました。

厳しい財政状況の中でも、住み良いまちとしてセンターを存続させていくためには、地域でできること、行政が行うべきことを明確にし、効率よく運営していくよう、今後もさらなる見直しが必要です。

《編集後記》

前回に引き続き、平成21年度の四自連の主な事業報告と、各ブロックの中から、特色ある自治会の活動を掲載しました。
今回掲載できなかった地区の活動は、次回以降に掲載する予定です。

《編集委員》

中部ブロック：松本光文	東部ブロック：花村　誠
北部ブロック：藤谷克彦	西部ブロック：小川泰雪
西南部ブロック：堤　　武	南部ブロック：野﨑一美

四日市市自治会連合会事務局
〒510-8601　四日市市諏訪町１－５
TEL・FAX　059－354－8287